

事業番号

2023 - 文科 - 22 - 0262

令和5年度行政事業レビューシート				（ 文部科学省 ）				
事業名	大学研究力強化推進事業			担当部局庁	研究振興局	作成責任者		
事業開始年度	令和4年度	事業終了 (予定)年度	令和30年度以降	担当課室	大学研究基盤整備課	大学研究基盤整備課長 黒沼 一郎		
会計区分	一般会計							
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	「文部科学省組織令」(令和3年10月「文部科学省組織令の一部を改正する政令」)第63条第1号及び第5号 「国立研究開発法人科学技術振興機構法」第23条、第28条			関係する 計画、通知等	「経済財政運営と改革の基本方針2021」(令和3年6月18日閣議決定) 「成長戦略フォローアップ」(令和3年6月18日閣議決定) 「統合イノベーション戦略2021」(令和3年6月18日閣議決定) 「経済財政運営と改革の基本方針2022」(令和4年6月7日閣議決定) 「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」(令和4年6月7日閣議決定) 「統合イノベーション戦略2022」(令和4年6月3日閣議決定) 「経済財政運営と改革の基本方針2023」(令和5年6月16日閣議決定) 「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画2023改訂版」(令和5年6月16日閣議決定)			
政策	政策目標8 知のフロンティアを開拓し価値創造の源泉となる研究力の強化			主要経費	科学技術振興費			
施策	施策目標8-4 世界レベルの研究基盤を構築するための仕組みの実現							
政策体系・評価書 URL	https://www.mext.go.jp/content/20221012-mxt_kanseisk01-000024706-06.pdf							
事業の目的 (5行程度以内)	大学等の研究力強化に関する基本的な政策の企画・立案、推進や、大学ファンドによる大学の研究環境の整備などを通じて、大学等の研究力強化に向けた政策の総合的な推進を図る。							
現状・課題 (5行程度以内)	大学等の研究基盤や研究人材、研究資金など、多岐にわたる文部科学省施策に対し、基本となる政策を企画・立案・推進するためには、大学等個別の強み・特色に基づく研究の実態と、多様のステークホルダーとの関係性において直面する共通的な課題を、可能な限りの正確性をもって把握することが求められる。 また、近年、我が国の研究力は諸外国と比較して相対的に低下している。欧米の主要大学は数兆円規模の独自基金の運用益を活用し、研究基盤や若手研究者への投資を充実し、それにより新たな学問領域やイノベーションの創出につなげている。このような資金力の差を各大学の力のみで直ちに解消することは困難であるため、国の資金を活用して大学ファンドを創設し、その運用を安全かつ効率的に行う必要がある。							
事業概要 (5行程度以内)	こうした背景から、国際基準による研究指標データの収集や、文献の調査、アンケート・ヒアリングの実施など、研究実態等を把握するとともに、大学研究力強化に係る政策形成のために行う各種手法を通じた調査・分析等や、大学ファンドの安全かつ効率的な資金運用を確実に担保するために行う「助成資金運用が長期的な観点から安全かつ効率的に行われるようにするための基本的な指針」の検証等に関する有識者会議の運営及び国内外の資金運用や金融動向、投資原則等に係る調査など、大学等の研究力強化に向けた政策を総合的に推進する。							
事業概要URL	-							
実施方法	直接実施、委託・請負							
補助率等	-							
予算額・ 執行額 (単位:百万円) (インプット)			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求	
	予算の 状況	当初予算(A)	-	-	44.5	74.6	120.6	
		補正予算(B)	-	-	-	-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
		前年度から繰越し(C)	-	-	-	-	-	
		翌年度へ繰越し(D)	-	-	-	-		
	予備費等(E)	-	-	-	-			
	計(F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	-	-	44.5	74.6	120.6		
	執行額(G)		-	-	23			
	執行率(%) =(G)/(F)		-	-	52%			
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) =(G)/{(A)+(B)}		-	-	52%				
令和5・6年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算項・目		令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由(・要望額・予備費)			
	(項)		研究振興費			大学ファンドの支援対象となる国際卓越研究大学の選定に係る段階的審査の進捗等により調査事項が増加したことに伴う委託費の増額。 重要政策推進枠 46百万円		
	(目)	大学研究基盤強化委託費	60	106				
	(目)	非常勤職員手当	7	7				
	(目)	委員等旅費	3	3				
	(目)	庁費	2	2				
	(目)	諸謝金	2	1				
	(目)	職員旅費	0.1	0.8				
		その他	1	0				
	計(A)		74.6	120.6				

活動内容① (アクティビティ)		令和3年度末よりJSTにおいて資金運用が開始されること、JSTの資金運用状況の評価を行いつつ、状況に応じて基本指針の変更や、JSTに対して基本方針の変更、運用方法の見直しを求めるため、国内外の資金運用や金融に関する情報などを継続的に収集・分析するための調査を行う。								
↓										
活動目標及び活動実績① (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		JSTの資金運用を定める基本方針等の見直し等に活かすための国内外の資金運用や金融情報を収集・分析する	資金運用や金融に関する調査の回数	活動実績	回	-	-	2	-	-
				当初見込み	回	-	-	-	1	-
↓	成果目標①-1の 設定理由 (アウトプットからのつながり)	国内外の新たな運用方法の特性やリスクに関する情報収集やJSTの資金運用状況の評価を行うことで、それらの情報・状況に応じて基本指針の変更や、JSTに対して基本方針の変更、運用方法の見直しを求めることとなるため。								
成果目標及び成果実績①-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 - 年度	
		効率的な資金運用を行うための不断の見直し	資金運用に関する基本指針、基本方針、業務方法書等の規定類の検証の回数	成果実績	回	-	-	2	-	
				目標値	回	-	-	-	-	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		「助成資金運用が長期的な観点から安全かつ効率的に行われるようにするための基本的な指針」の検証等に関する有識者会議 (https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shinkou/069/index.html)								
↓	成果目標①-2の 設定理由 (短期アウトカムからのつながり)	令和3年度末よりJSTにおいて資金運用が新たに開始され、文部科学省としても、事業期間(少なくともJST法に基づき50年程度を予定)においては、継続的に国内外の新たな運用方法の特性やリスクに関する情報収集を行い、JSTの資金運用状況の評価を行い、状況に応じて基本指針の変更や、JSTに対して基本方針の変更、運用方法の見直しを求めることを継続することにより、金融情勢の変化等に適時に対応して運用の安全性を確保することができるため。								
成果目標及び成果実績①-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 - 年度	
		大学ファンドの安全かつ効率的な資金運用の実現	世界最高水準の研究大学に必要な支援を行うための財源を継続的に確保できた回数	成果実績	回	-	-	-	-	
				目標値	回	-	-	-	-	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		※国際卓越研究大学の助成がまだ開始していないため、成果実績等は未記入								
アウトカム設定についての説明		アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由								
		-								
		アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由								
		-								

活動内容② (アクティビティ)		「国際卓越研究大学の研究及び研究成果の活用のための体制の強化の推進に関する基本的な方針」では、「各大学が大学独自基金の運用に必要な体制や制度を構築するため、国が、大学の求めに応じ、海外の大学の基金の運用に関する先進的な事例の調査結果などを提供する」とこととしている。このため、大学独自基金の運用に関わる学内ルールや学内体制の分析、計画実行のためのサポートに資する情報収集を行う。								
↓										
活動目標及び活動実績② (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		各大学における独自基金の運用のサポートに資するための国内外の大学基金の運用に関わる情報を収集する	各大学の独自基金運用に関する分析や調査、会議報告の実施回数	活動実績	回	－	－	2	－	－
				当初見込み	回	－	－	－	1	1
↓	成果目標②-1の 設定理由 (アウトプットからのつながり)	大学における運用のリスク管理方法や、ガバナンス体制等の実態に関して最新の情報収集を行うことで、大学基金の適切な資金運用が行われる体制の在り方を整理でき、大学の体制構築をサポートすることができるため。								
成果目標及び成果実績②-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 － 年度	
		国内外の大学基金の運用等に関わる望ましい運営体制の在り方の整理	収集した情報に基づいて大学の運営体制に対して助言を行った回数	成果実績	回	－	－	2	－	
				目標値	回	－	－	1	1	
				達成度	%	－	－	2	－	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		大学ファンドの資金運用を長期的な観点から適切なリスク管理を行いつつ効果的に行うことに資する調査業務報告書:ポストンコンサルティンググループ (https://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/daigakukenkyuryoku/itakuchosa01_0000001.html)								
↓	成果目標②-2の 設定理由 (短期アウトカムからのつながり)	大学における運用のリスク管理方法や、ガバナンス体制等の実態に関して最新の情報収集を行い、大学基金の適切な資金運用が行われる体制等の構築をサポートすることで、大学独自基金の安定的な資金運用による自律的な財務構造へと転換することができるため。								
成果目標及び成果実績②-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 － 年度	
		国際卓越研究大学等の世界最高水準の研究大学における安定的な大学基金運用の実現	大学基金の運用で一定割合の独自収入を確保している国際卓越研究大学の数	成果実績	回	－	－	－	－	
				目標値	回	－	－	－	－	
				達成度	%	－	－	－	－	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		※国際卓越研究大学の助成がまだ開始していないため、成果実績等は未記入								
アウトカム設定についての説明		アクティビティ②について定性的なアウトカムを設定している理由								
		－								
		アクティビティ②についてアウトカムが複数設定できない理由								
		－								

活動内容③ (アクティビティ)		大学等の研究力に関して大学等が直面する多様かつ共通的な課題について、研究指標データの収取等、各種手法による調査・分析を行う。									
↓											
活動目標及び活動実績③ (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込	
		調査・分析の実施	調査・分析の実施回数	活動実績	回	-	-	-	1	1	
				当初見込み	回	-	-	1	1	1	
↓	成果目標③-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)	大学等が直面する多様かつ共通的な課題について、調査・分析が実施されることで、研究指標データの収取等を結果を得て、それに基づく検討・分析を行うことができるため。									
成果目標及び成果実績③-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 - 年度		
		調査・分析の実施結果の分析	研究指標データなどの調査・ 分析結果の発行	成果実績	回	-	-	-	-		
				目標値	回	-	-	1	-		
				達成度	%	-	-	-	-		
成果実績及び目標値 の根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカム に関する成果実績		-									
↓	成果目標③-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)	データ収取を重ねることで、知見が集積し、大学間連携の在り方など、大学等の共通的な問題を把握することができ、研究力の強化、ひいては、科学技術・学術の発展、人材の育成、及びその成果普及に務める環境・体制の醸成・構築に関する政策立案に生かすことができるようになるため。									
成果目標及び成果実績③-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 - 年度		
		科学技術・学術の発展、人材の育成、 及びその成果普及に務める環境・体制 の醸成・構築	-	成果実績	-	-	-	-	-		
				目標値	-	-	-	-	-		
				達成度	%	-	-	-	-		
成果実績及び目標値 の根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカム に関する成果実績		令和5年度に調査・分析を実施する予定であり、データ収取により得られた知見を科学技術・学術の発展、人材の育成、及びその成果普及に務める環境・体制の醸成・構築に生かしていく。									
アウトカム設定について の説明		アクティビティ③について定性的なアウトカムを設定している理由									
		データ収取を重ねることで、知見が集積し、大学間連携の在り方など、大学等の共通的な問題を把握することができ、そしてそれは、研究力の強化、ひいては、科学技術・学術の発展、人材の育成、及びその成果普及に務める環境・体制の醸成・構築に生かすことができるようになる。これらは成果創出までに時間を要し、また、一義的な指標によって測定できるものではないため、定性的な指標を設定している。									
		アクティビティ③についてアウトカムが複数設定できない理由									
		-									
		-									
事業に関連する KPIが定められている 閣議決定等	名称	-									
	URL	-									
	該当箇所	-									

[illegible]

資金の流れ
(資金の受け取り先
が何を行っているか
について補足する)
(単位：百万円)



